



L コマンド

この章では、L で始まる、Cisco NX-OS ファイバチャネル、仮想ファイバチャネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

lldp

Link Layer Discovery Protocol (LLDP; リンク層検出プロトコル) のグローバル オプションを設定するには、**lldp** コマンドを使用します。LLDP の設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lldp {*holdtime seconds* | *reinit seconds* | *timer seconds*}

no lldp {*holdtime* | *reinit* | *timer*}

構文の説明

holdtime <i>seconds</i>	保持時間 (秒単位) を指定し、デバイスが、受信した LLDP 情報を破棄するまでに保持する時間の長さを設定します。 有効な範囲は 10 ~ 255 です。デフォルトは 120 秒です。
reinit <i>seconds</i>	任意のインターフェイスで LLDP の初期化を実行する前に待つ時間の長さ (秒単位) を指定します。 有効な範囲は 1 ~ 10 秒で、デフォルトは 2 秒です。
timer <i>seconds</i>	LLDP パケットが送信されるレート (秒単位) を指定します。 有効な範囲は 5 ~ 254 秒で、デフォルトは 30 秒です。

コマンドデフォルト

保持時間 : 120 秒。
再初期化 : 2 秒。
タイマー : 30 秒。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

LLDP 設定値には、ピアから受信した LLDP 情報を廃棄するまでの時間、任意のインターフェイスで LLDP 初期化を実行するまで待機する時間、および LLDP パケットを送信するレートが含まれます。

例

次に、グローバルな LLDP ホールドタイムを 200 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# lldp holdtime 200
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
lldp (インターフェイス)	インターフェイスに LLDP 機能を設定します。
show lldp	LLDP 設定情報を表示します。

lldp (インターフェイス)

インターフェイス上でリンク層検出プロトコル (LLDP) パケットの受信または送信をイネーブルにするには、**lldp** コマンドを使用します。LLDP パケットの受信または送信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
lldp {receive | transmit}
```

```
no lldp {receive | transmit}
```

構文の説明

receive	インターフェイスが LLDP パケットを受信するよう、指定します。
transmit	インターフェイスが LLDP パケットを送信するよう、指定します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、LLDP パケットを送信するようインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# lldp transmit
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイスに関する設定情報を表示します。

logging abort

進行中のロギング Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションを廃棄するには、**logging abort** コマンドを使用します。

logging abort

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、処理中のロギング CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch(config)# logging abort
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging	ロギング情報を表示します。

logging commit

ファブリック内で進行中のロギング Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションに関する未決定コンフィギュレーションを適用するには、**logging commit** コマンドを使用します。

logging commit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、アクティブなロギング コンフィギュレーションへの変更をコミットする例を示します。

```
switch(config)# logging commit
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging	ロギング情報を表示します。

logging distribute

ロギングの Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルにするには、**logging distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging distribute

no logging distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファイバ チャネル タイマーの変更をファブリックに配信する前に、**logging commit** コマンドを使用して、コンフィギュレーションへの一時的な変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定する必要があります。

例

次に、ロギング コンフィギュレーションの配信を変更する例を示します。

```
switch(config)# logging distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging commit	ロギング コンフィギュレーションの変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定します。
show logging	ロギング情報を表示します。